



## JR東労組仙台地方本部

## 「第35回定期大会」 大会宣言

私たちJR東労組仙台地方本部は、本日「ハーネル仙台」において、「仕事に誇りを持ち、仲間と雇用と生活を守るために、組織一丸となって施策に立ち向かおう！」「労働組合の必要性を訴え更なる組織の強化・拡大を全組合員でつくり出そう！」「スト権に頼らない、組合員と共に歩むJR東労組をつくろう！」のスローガンのもと第35回定期大会を開催し、職場からの運動を基軸に「新生JR東労組」運動を推し進める方針を満場一致で確認した。

この一年は正に苦闘の連続の日々であったことは言うまでも無い。しかし、全組合員が職場で発生している現実に項垂れることなく、常に前を向いて組織強化・拡大へと注いだ時間は決して無駄では無い。結実の証として、JR東労組の旗の下に再結集する仲間の決意へと繋がり、強いては仲間同士の信頼関係を深め、組織の強化を着実に前進させることが出来た。18春闘を巡り東北三地本執行委員長の連名で発出した声明から始まり、私たちは東北らしいたたかひをつくり上げてきた。将来のJR東労組の道を切り拓くには更なる組織強化・拡大が必要であり、組合員と真剣に議論を繰り返す積み重ね、全組合員が納得感、充実感を得る運動を展開する必要がある。組織現実に目を背けず、組織破壊を目論むあらゆる行為に対して仙台地本としても断固たたかひをつくり出していく。

会社は「変革2027」を踏まえ、「新たなジョブローテーションの実施について」を含めた様々な施策を展開している。私たちを取り巻く社会環境の変化は早く、それに対応出来なかった組織は衰退していくことを国鉄改革で学んだ。私たちが向かおうとする未来の状況を的確に捉え、判断し、仲間と共に私たちの雇用と利益、家族の幸せの向上のために常に先を読んだたたかひを職場からつくり出していく。組合員同士が本音で語り合い、未来を創造し、夢を持ちながら「私たちの施策」へと高めていかなければ、私たちの未来は閉ざされてしまう。全組合員が将来のビジョンをしっかりと考え抜き、議論を着実に積み重ねていこう！

6月30日、福島市議会議員選挙で羽田ふさお氏の5期目の当選を勝ち取った。厳しい組織現実から逃げず、小さな力といえども堅実に当選に向けてたたかひに決起した結果である。私たちの意志や方針、政策を支持し、共に歩む候補者の更なる当選へ向けて、今後控える地方自治体選挙や国政選挙で地域の皆さんと共に引き続き連帯をつくり出していこう！

JR東労組は健全な労使関係の中において議論を積み上げ今日のJR東日本をつくり、組合員の利益と家族の幸福を実現してきた。これまでの成果と課題を今一度捉え返す事で着実に組織運動を前進させる事が出来る。全組合員が手を取り合い、揺るぎない団結をつくり出し、眼前に聳える壁を突破して未来を切り拓いていこう！

以上宣言する。

2019年7月6日  
東日本旅客鉄道労働組合  
仙台地方本部  
第35回定期大会